

主体的に学ぶ学習活動の工夫を取り入れた社会科学習指導案

日 時 平成21年10月29日(木) 5校時

学 級 2年1組 男子18名 女子21名 計39名

授業者 小 渡 敏 貴

1 単元名 第1章 さまざまな面から見た日本 第1節 世界と日本の地域環境

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、『中学校学習指導要領解説—社会編』の内容(2)イ「世界と比べた日本の地域的特色」が基になっており、「世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。」こととし、我が国の地域的特色を自然環境の面から理解させることを主なねらいとしている。この学習指導要領に示された内容を、移行措置後の学習では、日本の「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」の4つの小単元に分けて学習を進めていくことになる。今回の実践では、移行期間として「自然環境」を中心に扱う。

「自然環境」については、世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる単元である。

日本は、地震や火山の多い不安定な大地上に位置している。その姿は列島を背骨のように山地が走り、規模の小さな平野が臨海部に点在している。日本列島の大部分は温帯に属してはいるが、狭い国土ながら、さまざまな要因から地域により気温・降水量などに違いが見られる。このことは、多様な自然災害が発生しやすいということでもある。本単元では、これまでの学習をふまえて、世界的視野と日本全体の視野から比較・追究し、我が国の国土の特色を自然環境の面から大観することをねらいとしている。

その際、1年生の時に学習した「(2)地域の規模に応じた調査」で学んだ知識や技能を活用することで、比較の仕方や地域的特色のとらえ方などの追究の方法について理解が高まるような学習を進めていきたい単元である。

(2) 生徒について

総じてまじめな授業態度であり、板書の記入や説明をしっかりと聞くなど、集中して授業に参加している。事前調査で、「あなたは地理の授業に意欲的に取り組もうとしていますか」との質問には71パーセントの生徒が肯定的な回答をしており、その様子が授業姿勢にも表れていると考えられる。しかし、自分の考えを発表する場では、積極的に発表する人数が少なく自信をもって主体的な活動が出来る生徒は少ない。自由記述で「いろいろな土地の事や自分たちの住む場所のことを知りたいと思う。でも深く考えるのは苦手だ。」との意見に代表されるように、社会的な思考を伴う内容は比較的苦手としている生徒が多いのも事実である。そのため、解答を求めることだけでなく、意見交換をすることで自分の解釈を深めていくことができるということを理解させたい。そして、資料の読み解きに自信が持てるように、分析するおもしろさに気付ける資料提示・資料内容にし、読み解く意欲を持たせたい。そうすることで、主体的に参加できる学習活動の場を増やし、地理的分野への意欲と関心を深める授業にしていきたいと考える。

(3) 指導・支援について

自然環境、特に気候に関しては、前単元の「世界の国々の調査」において、各国の農業の特色を学習するときに触れている。その時の様子では、関心のある生徒と関心の薄い生徒の定着に差があり、自らの意見を導きだそうとする気持ちが少ない生徒がいたのも確かである。

そこで、本単元では、既習事項で着目した視点を生かしながら、日本や世界の気候や地形の様子を重ね合わせ、相違点に着目し生徒自身が主体的に理解できるように指導したい。そのために、

視覚的に理解できる構造的な板書やまとめをする際に必要となる言葉を大切にし、自分の意見を持てるよう支援したい。

3 単元の目標

- (1) 日本の地形や気候は、世界各国と比較して複雑であり、四季の変化など地域差があることに関心を持ち、また、災害による被害を少なくするための方策を積極的に考えることができる。
【関心・意欲・態度】
- (2) 日本の気候の特徴を様々な自然条件から説明することができ、さらに、地震や洪水などの自然災害の原因や災害防止のための努力や工夫について考えることができる。【思考・判断】
- (3) 地球儀、地図、主題図、統計資料などから、世界と日本の地形や気候区の分布とその成り立ちを読み取ることができる。【技能・表現】
- (4) 世界的に見て日本の地形や気候はどのような特色があるかを説明できるとともに、国内を見て複雑な地形や気候の分布を地図上で指摘することができる。【知識・理解】

4 指導計画

- | | | | |
|---------------|------|-------------------|----------|
| (1) 世界の地形のようす | 1 時間 | (5) 日本が属する温帯のようす | 1 時間 |
| (2) 日本の山地と海岸 | 1 時間 | (6) 日本の気候の地域差を見よう | 1 時間(本時) |
| (3) 日本の川と平野 | 1 時間 | (7) 自然災害とその対策 | 1 時間 |
| (4) 世界の気候のようす | 1 時間 | | |

5 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
日本の地形や気候の複雑さ、地域差に関心を持つ。 日本の災害の状況を知り、被害を少なくするための方策を考えようとしている。	日本の気候の特徴を様々な自然条件から説明している。 自然災害の原因や災害防止のための努力や工夫について考えている。	地球儀、地図、主題図、統計資料など日本の地形や気候の特徴を読み取っている。	日本の複雑な地形や地域差が見られる気候などを説明している。 日本の主な山地名や河川名、気候区分等を身につけている。

6 本時について

(1) 目標

ア 日本の気候は、南と北、日本海側と太平洋側など、位置や地形との関係で地域によりそれぞれ特徴があることを、雨温図等から読み取ることができる。【技能・表現】

イ 気候区分を行い、それぞれの気候の特色を考察することを通して、日本の気候が変化に富んでいることに気づく。【思考・判断】

(2) 手だてを入れた指導・支援の構想

生徒が主体的に学習活動に取り組む姿を「耳を傾け、うなずき、つぶやく」等の動きから、「調べ、挙手し、発表する」様子へ発展するものとイメージしている。そこで、生徒が思考を働かせやすく、さらに自分の考えを発表しやすい指導過程を工夫するため、学習五訓を意識した、めりはりのある流れを組みたいと考える。

本時では、特に「自分で考える」ための方向性を明らかにするために、活発な意見交換が行われ、課題解決につながるような支援をしたい。そして自分の考えと他者の意見を視覚的にとらえられるようノートにまとめさせたい。その後、課題の検証をすることで、自分で考える力につな

がっていくものと考え。そして思考が明確になるよう意見を集約し、多くの情報から考察する事によって「わかる、出来る、認め合う」ことができると考える。

(3) 具体の評価規準

観 点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒への手立て	評価の方法
【技能・表現】	各地の気候の特徴を雨温図を使い理由を含めて説明することができる。	各地の気候の特徴を雨温図を使って説明することができる。	雨温図の見方を説明する。	表情観察 机間指導 発表
【思考・判断】	日本の気候区分の特色を緯度・季節風・地形等の条件を用いて説明することができる。	日本の気候区分の特色を資料をもとに比較し、その特色を考察することができる。	条件に気付かない生徒には条件を指導する。	学習シート

(4) 展開

展 開	学習内容と 学習五訓	生徒の活動	指導・支援の方法、留意点
授 業 前	○ 授業前 「ベル席を守る」	○ 学習用具の準備をする。	○ プリントを配付する。
導 入 5 分	1 日本の気候の違い 2 課題把握	1 地域によって気候が違う事に気づく。 2 本時の課題を確認する。	1 日本国内の同じ月の写真を数枚見せ、季節と場所を予想させる。
	日本では、地域によってどのような気候の違いが見られるだろうか。		
展 開 35 分	3 3つの気候区分について 「自分で考える」 「進んで発表する」 4 温帯の気候区分について 「わかる、できる、認め合う」	3 気候の違いを冷帯・温帯・亜熱帯の3つに分け、北海道と南西諸島の気候の違いを雨温図で調べ、発表する。 4 緯度の差以外にも気候の変化に及ぼす影響から、温帯のなかでも気候の違いが分かれていることを確認し、雨温図で調べ、検証する。 I 日本海側と太平洋側の違いについて II 中央高地気候について III 瀬戸内の気候について	3 雨温図の分析方法を確認し、考えられる情報をより多く発表させる。 4 各地域の写真を見せながら、緯度の差による気候の違いだけでないことに気付かせる。 I では日本海側から太平洋側の断面図を見せ、山脈や風による影響を視覚的に理解させる。

			II・IIIでは、金沢よりも低緯度であっても松本の積雪量が多いことやため池が必要な理由などを写真資料で理解する。
終末 10分	5 気候の違いと特色をまとめる 「集中して聞く」 「わかる、できる、認め合う」 6 次時について	5 自分の意見をまとめ、発表する。 6 次時の学習内容を確認する。	5 本時の授業で学んだ言葉を思い出しながら、気候の違いのポイントに着目させる。

(5) 評価

ア 日本の気候は、南と北、日本海側と太平洋側など、位置や地形との関係で区分ができるということを、雨温図や分布図等から読み取ることができたか。【技能・表現】

イ 気候区分を行い、それぞれの気候の特色を考察することを通して、日本の気候が変化に富んでいることに気づいたか。【思考・判断】

(6) 板書計画

10/29 p148~149

課題

地域によってどのような気候の違いが見られるだろうか。

I・・・北海道ー冷帯（亜寒帯）

II・・・南西諸島ー亜熱帯

III・・・温帯

①日本海側

②太平洋側

③中央高地

④瀬戸内

まとめ